令和２年度　『社会福祉法人昴会』事業報告書

１．令和２年度の重点課題からの振り返り

（1）利用者の人権擁護・虐待の防止の取り組み・支援や関わりの質を高める

今年度も、四季の郷、第一大山荘・第二大山荘・第三大山荘、細江あすなろ作業所、大山ファーム・すばる、アグリッシュ西丘から各１名ずつ虐待防止委員を任命し、法人虐待防止委員会を実施するとともに、各施設・事業所でも虐待防止に向けた取り組みを実施してきた。

四季の郷では、主任者会・QOL 向上委員会を中心に利用者への関わり方や入浴・移乗の介助方法の確認・検討を行ってきた。第一・第二・第三大山荘では毎月のケア会議の場を利用して支援の確認・検討の実施、細江あすなろ作業所、大山ファーム、アグリッシュ西丘では、内部研修を通して人権擁護・虐待防止の意識の向上に努めてきた。新型コロナウイルス感染拡大を受け、法人虐待防止委員会の実施は２回にとどまったが、前年度の振り返りを経て、各施設・事業所の状況に合わせた具体的な取り組みができた。

（2）専門性を高めるための機会の充実

今年度は、コロナ感染拡大に伴い外部研修の機会は少なかったが、各施設・事業所とも研修の機会を確実に持つように取り組んできた。

コロナ感染拡大で、支援の場が施設・事業所内で実施されることが多くなったことで、各施設・事業所とも、目の前の利用者に向けた支援の状況をより深めようとしたり、特に行事・レクリェーションについては、利用者が少しでも楽しめるような工夫や配慮がよりなされたことにつながっていた。

（3）安定的な事業運営のため、職員人材の確保への取り組みを強化する

今年度も、年間を通して、市社協人材バンク登録や相談会、説明会の積極的な参加やハローワークを通した求人活動を行ってきた。また、四季の郷では、積極的に実習生の受け入れを行ってきた。

コロナ感染拡大で、求職者が増えている状況下であったが、障害者領域の情報発信力が低いことによる認知度の低さが原因か、高齢者領域には比較的求職者が集まるものの、障害領域はどの法人も苦戦している状況がうかがわれた。四季の郷の実習生の受け入れについても、昨年の４分の１程度の受け入れ日数で、学生との接点も激減していた。

そのような中、人材派遣や人材紹介の業者からの情報は例年より多く、昨今の求職者の傾向が、業者を介したものに移行しつつあるように感じた。

外国人材へのアプローチについても、世界的なコロナ感染拡大を受け、全く進まない状態であった。

（4）苦情受付・解決担当者会議を通して、サービス提供に関わる苦情の受付を積極的に行う

今年度も、苦情に限らず、要望や意見を広く受付を行ってきた。

苦情受付体制下での受け入れ件数は６件であった。内容的には、利用者への支援員の関りに関することや請求ミス等が主な内容であった。いずれの苦情も、苦情を訴えられた利用者･家族には対応済みであるが、再発防止への更なる検討は必要な内容ばかりであった。

（5）事業所外での作業支援や行事、ドライブ、歩行訓練、送迎の場面等で、特に職員一人体制時での非常事態への対応のためのマニュアル作りを行っていく。

施設・事業所外での作業活動や行事は、原則複数職員体制で、非常連絡用の携帯電話の所持を徹底した。また、送迎を行う事業所については、送迎ルート別に、利用者の乗り降りの地点の図や事故等の場合の連絡方法等を記したマニュアルを所持して送迎業務に当たってきた。今後としては、送迎中の大地震等の災害発生時の対応について、明確なマニュアル作りが課題であると感じている。

(6) 新たに生活介護事業を加え多機能型事業所となったアグリッシュ西丘に安定的な運営を行っていく。

5月1日付けで、アグリッシュ西丘を就労継続支援B型（定員20名）と生活介護（定員6名）の多機能型事業所として再スタートした。新たに非常勤職員1名を採用し、常勤職員2名と3名体制で支援を行ってきた。トイレや食堂は共同であるものの、コロナ感染対策で昼食時間をずらしたり、活動場所をパーテーションでしっかり区切ることができたこともあり、特にトラブルなく年度を通すことができた。

収益的に四季の郷短期入所等の収益がかなり減ってしまった中、アグリッシュ西丘多機能化は、事業の収益アップと安定化につながる取り組みであった。

2．各事業の利用実績

施設・事業名		年間開所日数	利用者数×利用日数	1日平均利用者数	事業定員	備　考
四季の郷	施設入所支援	365 日	17,244 人日	47.3 人	50 人	
	生活介護	269 日	12,363 人日	46.0 人	49 人	
	短期入所	365 日	281 人日	0.8 人	10 人	
第一･第二･第三大山荘	共同生活援助	365 日	6,120 人日	16.8 人	17 人	
細江あすなろ作業所	生活介護	256 日	4,424 人日	17.3 人	20 人	
大山ファーム	就労移行支援	261 日	161 人日	0.7 人	6 人	
	就労継続支援B型	261 日	5,708 人日	21.9 人	22 人	
アグリッシュ西丘	生活介護	247 日	1,061 人日	3.7 人	6 人	R2.5.1 開所
	就労継続支援B型	261 日	4,865 人日	18.7 人	20 人	
事業所合計			52,227 人日	(1年度)51,925 人日		

3．法人評議員会の開催

第1回　令和2年6月26日（金）13:30～15:00　於．四季の郷作業棟

（欠席者）1名

（議案）1．平成31年度・令和1年度事業報告書案の承認

2．平成31年度・令和1年度収支決算書案の承認

3．監事監査の認定について

※報告事項

4．法人理事会の開催

第1回　令和2年6月9日（火）14:00～15:30　於．四季の郷会議室

（欠席者）なし

（議案）1．平成31年度・令和1年度事業報告書案の審議

2．平成31年度・令和1年度収支決算書案の審議

3．監事監査の認定について

４．昴会評議員（金井宏之氏）逝去に伴う新評議員の選任について
５．令和２年度第１回評議員会の議案について
※報告事項

第２回　令和２年１２月２３日（水）10:00～11:40　於．四季の郷会議室
（欠席者）２名
（議案）１．グループホームの指定統合について
２．令和２年度第一次補正予算案の審議
３．昴会経理規程の改訂
※報告事項

第３回　令和３年３月２２日（月）14:00～17:00　於．四季の郷作業棟
（欠席者）なし
（議案）１．令和２年度第二次補正予算案の審議
２．令和３年度昴会事業計画案の審議
３．令和３年度昴会収支予算案の審議
４．令和３年４月からの事業所管理者の変更について
５．昴会苦情解決第三者委員の選任について
６．法人役員等の賠償責任保険の内容の決定について
７．令和３年６月からの新たな昴会評議員の候補者推薦について
※報告事項

５．法人監事による内部監査の実施

令和２年５月 25 日（月）、安富　恒理事長、袴田章彦理事、伊藤利郎事務局長が同席し、伊藤秀俊監事、落合克能監事による平成 31 年度・令和１年度決算監査を実施した。

６．借入金の償還

「第二大山荘」・「第三大山荘」及び「大山ファーム」建設資金として独立行政法人福祉・医療機構よりの借入金について、令和２年度は以下のように償還を行った。

＜第二大山荘・第三大山荘＞

令和	２年	９月	利子	１４，９９４　円
令和	３年	３月	元金	３，５７０，０００　円
令和	３年	３月	利子	１４，９９４　円
合　計				３，５９９，９８８　円

＜大山ファーム＞

令和２年　４月　元金	２９８，０００　円	
元金合計（×12）	３，５７６，０００　円	①
令和２年４月～３年３月利子	１９２，０４０　円	②
合　計（①＋②）	３，７６８，０４０　円	

８．各施設・事業所の事業報告

四季の郷

１．四季の郷の支援目標

今年度も、『生き生きとした暮らしの実現』を四季の郷の支援目標に掲げ支援を行ってきた。

２．利用者の状況

年度途中に介護保険施設に移行２名、身体障害者施設に移行１名、病死１名の計５名の退所者があった。入所は計４名で、高齢利用者の移行もあったため、平均年齢が少し下がった。

また、平均障害支援区分については、入退所が見られたものの、前年度の同じ状況であった。

利用者の年齢構成　　（単位：名／施設入所支援利用者 48 名中・R3.3.31 現在）

	20 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	60 歳～	70 歳～	計
男性	0	4	7	8	3	2	24
女性	4	2	3	4	7	4	24
	最高齢　83 歳・最若齢　25 歳／平均年齢 52.5 歳						

利用者の障害支援区分

	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
男性				3	10	11	24
女性			1	3	11	9	24
	平均障害支援区分　5.3						

３．具体的な取り組み

(1) 支援体制

●生活支援体制

今年度も、Ａ・Ｂ棟二舎制の生活環境をベースに支援を行ってきた。

夏場の高温化や特にＢ棟利用者の介護度の増加が大きな課題となり、主任者会議や QOL 向上委員会を中心に、支援環境の改善に努めてきた。

●会議

Ａ．職員全体会議

半年に１回（4 月・10 月）開催。全職員出席。事務や医務、栄養の各部署からの連絡事項と共に、4 月は施設全般の方向性の確認、事業計画及び支援体制の確認、新型コロナウイルス感染予防等を、10 月には岐阜県の社会福祉施設職員向け研修会の講義資料を視聴するなど、新型コロナウイルス感染予防中心に確認を行った。

Ｂ．男女別ケア会議、男女合同ケア会議

今年度も男女別と男女合同での２つの形で実施してきた。毎月１回ずつを予定していたが、新型コロナウイルス流行のため５月の会議は中止となった。毎回、会議資料を工夫して、伝わりやすく共有しやすい会議の実施に努めてきた。

Ｃ．給食会議

毎月１回開催した。施設長・事務局長、サービス管理責任者・看護師・栄養士・厨房職員が出席。食事の設備・内容、利用者への対応等に関する調整等行った。他の事業所のコロナ感染状況を給食業者から教えてもらう機会も多かった。

Ｄ．主任者会議

毎月１回開催した。施設長、サービス管理責任者・主任及び副主任が出席した。支援全般の課題等の具体的な検討・調整等を行った。

Ｅ．ケース会議

特定の利用者への支援や事故等の状態を見て、必要に応じ、会議を実施してきた。

●委員会

Ａ．ＱＯＬ向上委員会

今年度も、サービス管理責任者、主任を含め５名の職員での『ＱＯＬ向上委員会』を組織し、委員会を実施した。委員会での取り組みは以下の通り。

・職員サービス自己評価の実施と前年度結果の集計及び改善に向けた取り組みの実施

…今年度は、①ハード面から見た支援環境②職員の動き・連携から見た支援環境③利用者への関わり方・接し方のリスク管理の3点に絞り、令和2年3月に実施した自己評価をもとに、改善策等の検討を行った。
その結果、まず①については、事務室前廊下へのエアコン設置、浴室小浴槽へのリフトの設置等の実施、②については、食事介助や移乗介助の方法の確認、職員の申し送り・情報共有の方法の検討等を実施、③については、パーテーションを使った個別化や言葉かけ、働きかけの確認、関わり方の強化月間の設定、意思決定支援の試行等を実施してきた。また、利用者自治会の活動についても、検討を行った。

・利用者の意思決定への支援・・・利用者自治会の運営

…利用者自治会の実施

今年度も、利用者から選ばれた会長を中心に役員その他参加希望者によって自治会の取り組みを行った。
『セレクトドリンク』、『セレクトふりかけ』、『入浴剤』、『行事のメニュー』等、利用者の生活の中に少しでも自分で選択を行う機会を持てるように、また、選択肢の決め方も、自分の意思が確認できるように雑誌や写真、絵、実物を使ったイメージ出しを行うなど、工夫を行ってきた。自分たち決めたことが実現することで、生活意欲の向上につながっているように感じた。

B．危機管理委員会

今年度も、サービス管理責任者、主任を含め5名の職員での『危機管理委員会』を組織し、毎月委員会を実施した。委員会での前月の事故報告書、ひやり・はっと報告書の集計・分析を行うと共に再発防止策の検討を行った。必要な場合には、主任者会議やケア会議につなげ、再発防止策の具体的な検討や周知を行ってきた。

(2) 日中課業活動の支援

今年度も各活動単位で日中活動を実施した。

A．平日の課業活動支援（生活介護事業での日中活動支援）

介護度の高まりや夏場の異常高温もあり、今年度も毎日実施はできなかったが、週案に沿って安定的に実施してきた。また、希望者にはあんま師による関節可動域維持のための施術を取り入れた。以下が活動グループ。

●作業系

・外注作業班　・リサイクル活動班

●歩行系

・体力活動班　・健康活動班　・ドライブ＆散歩班

●リハビリ系

・機能維持活動班

B．休日等のクラブ活動支援

今年度も、余暇活動として以下のクラブ活動を実施した。

●音楽クラブ

カラオケや季節に合った歌をうたったりしてきた。

●競技クラブ

コロナ感染拡大のため、『フライングディスク競技大会』や『県知協オレンジマラソン大会』が中止となり、活動はできなかった。

●絵画クラブ

外部より絵画の講師を招き、絵画づくりを行った。

●元気クラブ

平日の活動の補完的な意味も含め、散歩中心の活動を行った。

●家庭科クラブ

調理やおやつ作りを行った。

●作業クラブ

自閉症利用者を対象に、フック作業棟の軽作業活動を行った。

(3)行事活動の支援

今年度も、ねらい別に全体行事、グループ活動、誕生会・季節行事に大きく分けて、職員の役割分担の下で行事活動を行った。

A．全体行事

●春の親子遠足・・・コロナ感染拡大のため中止

●夏祭り・・・8 月 22 日（土）

コロナ感染拡大のため、夏祭りの雰囲気はそのままに、利用者・職員のみで小規模に実施した。恒例の花火も実施。

●秋祭り・・・11 月 23 日（土）

コロナ感染拡大のため、保護者会バザーや外部団体の出店や催し物は中止し、利用者・職員のみで実施した。特に通常の秋祭りでは保護者会バザーでの買い物が十分にできなかったため、利用者向けに商品を用意して、グループごとに買い物を楽しんだ。

●クリスマス会・・・12 月 21 日（土）

コロナ感染拡大のため、利用者・職員のみで、パーティ食の喫食を中心に実施した。恒例のプレゼントは、サンタクロースがＡ棟・Ｂ棟に出向き、蜜を避けるように配慮しながら実施した。

B．グループ活動

コロナ感染拡大のため、大きな公園等での散策が中心の活動となった。昼食は、ドライブスルーや弁当を購入し、作業棟で食べるなどの配慮をしてきたが、あらかじめメニューを提示して、自分で好きなものを選び購入するなどの工夫も実施してきた。また、

C．誕生会・季節行事

今年度も、生活の“めりはり”に季節感を入れ込んでいきたいという理由から、お花見や七夕、新年会、節分などの企画を、誕生会との同時企画という形で実施してきた。また、夏祭りのうちわ作りなど、大行事を盛り上げるような内容も取り入れた。

D．その他の行事

映画会やミュージカル、作品展やスポーツ大会は、すべて中止となった。

(4)健康を維持するための支援

●医療管理

今年度も、体調の変化の早期発見と早期対応に努めてきた。そのために支援員や栄養士との連携を行ってきた。

服薬管理等の日常的な医療管理は嘱託医による月 2 回の定期受診に基づき実施してきた。また、年 2 回の健康診断や年 1 回の歯科検診で発見された糖尿病や高血圧、心疾患、虫歯、歯槽膿漏等の病気・症状に対しては、早めの通院を心掛けた。

今年度は特に、利用者・職員が新型コロナウイルスに感染しないように、また、感染の早期発見ができるように、検温をはじめ利用者の体調面の観察等を強化するとともに、館内消毒の時間を設定するなど、全職員で感染予防対策に努めてきた。その結果、利用者には発熱等は見られたが、コロナ感染は発生しなかった。

●栄養管理

健康管理に関しては、医療・支援側との連携を保ちつつ、管理栄養士の管理の元で利用者一人ひとりに合った食事提供を行ってきた。

特別食の内容はダイエット食・嚥下食等があり、その他糖尿対応のカロリー指定、食欲不

振や偏食傾向の強い利用者には代替食の提供や調理法の工夫、栄養強化の必要がある利用者には栄養補助食品を使用してきた。年々、利用者の高齢化による嚥下力が低下している利用者が増え、嚥下（ペースト）食・極刻み食等、利用者の嚥下状況に合わせた食事の提供が必要になってきている。また、栄養ケアマネジメントにより、栄養士だけではなく他職種との連携をとりながらトータル的な栄養ケアを行ってきた。定期的なスクリーニングや栄養ケア計画の見直しを行う事により、よりきめ細やかな栄養サポートを心掛けてきた。献立作成時は旬の食材の取り入れ、利用者の要望を取り入れた季節感のある行事食を提供してきた。

震災時への対応としては、6 日分の非常食と飲料水を確保し、防災倉庫に備蓄してきた。施設利用者にとって、食事は一日の楽しみの大きな部分を占めているため、今後も栄養管理・衛生管理・感染予防をしっかりと行い、利用者に喜んでもらえるような食事を提供していきたい。

※食事提供の状況（2021.4 現在）

盛り付け量	主　食	カロリー	男	女	合計
極々小	60ｇ	1450kcal	0	0	0
極　小	100g	1550kcal	0	7	7
小	120g	1650kcal	6	10	16
中	150g	1750kcal	6	4	10
大	200g	1950kcal	5	2	7
特大	250g	2150kcal	7	0	7
超特大	300ｇ	2350kcal	1	0	1
合　計			25	23	48

種　　類		男	女	合計
特別食	ダイエット食　コンニャクライス	1	3	4
	低脂肪牛乳	0	2	2
	糖尿食	0	0	0
	心臓病対応食（塩分制限）	0	0	0
	極刻み食	0	3	3
	刻み食	11	10	21
	一口大	2	0	2
	嚥下ミキサー食	0	1(入院中)	1
栄養補助食品	微量栄養素補助食品	0	1	1
	栄養強化食品	2	1	3

(5) 防災訓練

今年度も、万が一に備えて毎月計画的に防災訓練を実施した。訓練実施後は、参加者にチェックシートの記入をしてもらい、その訓練ごとに振り返りを行ってきた。

ただし、コロナ感染拡大を受けて、消防署から水消火器が借用できなかったり、消防隊・救急隊による救命講習会ができない影響があった。

実施月日	訓　練　実　施　内　容
4 月 8 日	夜間火災を想定しての避難訓練、水消火器による消火訓練
5 月 17 日	土日早朝火災を想定しての避難訓練
6 月 12 日	平日日中火災を想定しての避難訓練、非常食炊き出し訓練
7 月 13 日	大雨による河川氾濫の避難訓練、停電訓練
8 月 10 日	大規模地震発生を想定しての避難・対応訓練

9月18日	夜間火災を想定しての避難訓練、安否コールを使用した送受信訓練
10月23日	休日日中火災を想定しての避難訓練、非常食炊き出し訓練
11月8日	平日日中の大規模地震を想定しての避難訓練、テント設営訓練
12月28日	平日日中火災を想定しての避難訓練（抜き打ち）
1月13日	夜間帯の火災を想定しての避難訓練、消火器使用訓練(コロナ感染拡大の為)
2月8日	平日日中火災を想定しての避難訓練、厨房職員参加 ※コロナ感染拡大の為、防災講習会実施できず
3月4日	平日日中火災を想定しての避難訓練

(6) 家族や地域の方々との関わりを深め、障害者福祉の地域拠点となるように努める。

①四季の郷保護者会の事務局機能

保護者会との橋渡しを行ってきたが、今年度の全体活動はすべて中止となったため、保護者会役員会への出席が主な活動であった。

②行事ボランティアの募集・受け入れ

コロナ感染拡大のため、行事も利用者・職員のみで実施し、ボランティアの受け入れは行わなかった。

③実習生の受け入れ

今年度も積極的に実習生の受け入れを行ってきた。新型コロナ流行に伴い、一部実習受け入れの期間を変更したり、事前オリエンテーションを実習初日に実施するなど、できるだけ接触する機会を減らす取り組みを行った。しかし、コロナ流行の影響と実習希望者の減少が顕著に見られ、受け入れのべ人数は前年度の4分の1まで減少した。

※実習生受け入れ実績　（令和2年4月～令和3年3月／実習受け入れ順）

所属等	目的	実習期間	実習日数	受入人数
浜松学院大学	保育実習	9月14日～9月26日	12	2
静岡県立大短大	ソーシャルワーク実習	9月28日～10月3日	6	1
東海大学短期大学部	教員資格取得・保育実習	11月5日～11月15日	10	2
東海大学短期大学部	教員資格取得・保育実習	11月19日～11月29日	10	2
静岡県立大短大	ソーシャルワーク実習	2月18日～2月23日	6	1
実習受け入れのべ日数			44日	
実習受け入れのべ人数			8名	

(7) 短期入所

新型コロナ感染拡大による受け入れの中止や、利用者の利用控えもあり、今年度は利用受け入れが激減した状態であった。

(8) 日中一時支援事業

今年度の受け入れについても、浜松市と磐田市で委託契約を結び事業を行ってきた。浜松市は西区、北区、中区、南区からの利用が見られたが、磐田市からは利用は見られなかった。

(5) 職員のスキルアップに努める。

①職員研修の実施

●園内研修

日　付	研修内容	参加者
6 月 23 日	「夏場対策」（サビ管・支援員・栄養士）	16 名
7 月 14 日	「ピア・スーパービジョン」（施設長・サビ管・支援員）	6 名
7 月 22 日	「リスクマネジメント」（サビ管・支援員）	6 名
8 月 24 日	「ピア・スーパービジョン」（施設長・サビ管・支援員）	6 名
9 月 29 日	「ピア・スーパービジョン」（施設長・サビ管・支援員）	6 名
11 月 30 日	「ピア・スーパービジョン」（サビ管・支援員）	5 名
12 月 2 日	「自閉症の理解」（サビ管・支援員） ※外部講師　ルピロ内山所長	7 名
12 月 8 日	「嘔吐物・汚物の処理実践研修」（サビ管理・支援員）	4 名
1 月 14 日	「嘔吐物・汚物の処理実践研修」（サビ管理・支援員）	3 名
2 月 24 日	外部研修報告（サビ管・支援員・栄養士） ①優しさを伝えるケア技術 ②認知症を発症した知的障害者への支援を考える ③ケアマネ・相談員のための栄養ケア講座	11 名
3 月 17 日	「自閉症の理解」（サビ管・支援員） ※外部講師　ルピロ内山所長	7 名

●外部研修

日　付	研修内容	参加者
7 月 3 日	Zoom 研修「採用活動にも活かせる『Zoom』セミナー」（サビ管）	1 名
8 月 14 日	Zoom 研修「高齢者施設のリスクマネジメント」（支援員）	1 名
9 月 14 日	Zoom 研修「社会福祉施設等における 新型コロナウイルス対策講座」（サビ管）	1 名
10 月 13 日	Zoom 研修「チームで取り組む身体拘束防止」（支援員）	1 名
10 月 14 日	Zoom 研修「ケアマネ・相談員のための栄養ケア講座」（サビ管）	1 名
11 月 13 日	「令和 2 年度サビービス管理責任者更新研修」（サビ管）	1 名
2 月 16 日	Zoom 研修「認知症を発症した知的障害者への支援を考える」 （支援員）	2 名

第一・第二・第三大山荘

※令和 2 年 10 月 1 日付で、職員配置の都合やグループホーム間の連携強化のため、指定上、第一大山荘と第二大山荘・第三大山荘を統合し支援を実施してきた。

■第一大山荘

1．入居者の状況（令和 3 年 3 月 31 日現在）

	氏　名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Ａさん	男	71	平成 14 年 10 月	四季の郷（生活介護）
2	Ｂさん	男	64	平成 14 年 10 月	大山ファーム（就労継続Ｂ型）
3	Ｃさん	男	69	平成 21 年 10 月	アグリッシュ西丘（就労継続Ｂ型）
4	Ｄさん	女	64	平成 22 年 5 月	パルステック工業株式会社就職
5	Ｅさん	女	58	平成 31 年 4 月	アグリッシュ西丘（就労継続Ｂ型）

2．支援の状況

・年々、入居者の高齢化に伴う介護度の高まりや通院等の機会の増加が見られている。特に、高血圧や糖尿病等の生活習慣病の罹患や悪化が見られている。協力医療機関への通院を行

い、医師より指導や投薬を受けているが、本人の病気理解や現況理解が難しく、職員の説明に理解ができなかったり、意味は分かっていてもなかなか応じることができない姿も見られた。健康管理を本人と如何に進めて行くかが課題である。

・生活の主体者は利用者であることを意識した支援を行なった。グループホームが他人との共同生活の場でもある以上、お互いにある程度のルールを設けることはあったが、「利用者一人ひとりの暮らし」を基本に、情報提供と利用者の自己選択・自己決定を尊重し、そして本人の生活スタイルや自由、要望に応えることを大切にした支援を行った。

・日常生活においては、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、平日は日中活動先の大山ファームやアグリッシュ西丘、四季の郷、就労先の会社との連絡調整を行い、連携・協力して支援を行った。土日は、新型コロナウイルスの影響で、法人の行事や地域の行事、催し物が中止となり、地域で「自分らしく、普通の暮らし」ができることは難しかった。

・「事故」については、居室のエアコンの使用間違いで、熱中症となってしまい、入院することがあった。それ以外に、転倒する利用者もいたが、、大事には至っていない。６０歳以上の年齢が、ほとんどなり、高齢化が見え始めている。大きな怪我に繋がらないようにしていきたい。

・新型コロナウイルス感染予防については、マスクの着用や手洗い、消毒、指導を繰り返し行った。外出時の注意を何度も伝え、本人自身が注意してもらえるように取り組みを行った。どれだけの理解が得られたのかは不明だが、入居者なりに注意をしてくれている姿も見られた。

・家族（成年後見人等）とは、面談や必要な連絡、日帰り帰宅等の機会を通して連携を保ってきた。

・地域の方々との関わりについては、新型コロナウイルスの影響で、自治会に入会したものの、地域行事等が中止となり、参加することができなかった。地域の方から、見かけた時には声を掛けて頂くなど、地域住民の一人として接し、気に掛けて頂いていることを感じた。

・スキルアップについても、新型コロナウイルスの影響で中止になり、法人の職員研修や外部研修に参加することが出来なかった。

３．支援体制

・支援体制としては、管理者、世話人（パート職員 1 名）、生活支援員、補職職員が日常生活支援に当たり、地域生活を送る上で必要な買い物などの外出支援、食事支援、通院付添等の医療支援の他、相談事やメンタル面のケア、日中活動場所との連絡調整などを行った。また、バックアップ施設の四季の郷職員、日中活動先の大山ファームやアグリッシュ西丘職員、相談支援事業所職員、パルステック工業の担当者とも連携・協力して支援を行った。

４．健康支援

・毎朝の検温と血圧測定、年 2 回の健康診断を通して健康管理に努めた。また、疾患のある入居者のために日常的な服薬管理、通院支援を継続した。また、日中活動先での歯科検診や年 2 回の健康診断の結果を踏まえ、必要な利用者の受診支援を行った。

５．行事

・第一大山荘全体での行事は計画していない。新型コロナウイルスの影響で、行事が中止になったり、規模を縮小しての行事となり、参加することは出来なかった。

６．会議・研修

・第一大山荘の会議は年 6 回（偶数月）に実施した。研修は、第二大山荘・第三大山荘の研修

に参加する形で実施してきた。

７．防災の取り組み

・防災訓練実施状況は以下の通り。

5 月 12 日	大雨による土砂災害を想定しての避難訓練
7 月 10 日	夜間の火災を想定しての避難訓練
9 月 8 日	南海トラフと大地震を想定しての避難訓練
11 月 20 日	大山町地域防災訓練に参加

■第二大山荘・第三大山荘

１．入居者の状況（令和 3 年 3 月 31 日現在）

第二大山荘

	氏　名	性別	年齢	入居年	日 中 活 動 先
1	Ａさん	男	73	平成 21 年 9 月	引佐草の根作業所
2	Ｂさん	男	69	平成 21 年 9 月	細江あすなろ作業所
3	Ｃさん	男	57	平成 21 年 9 月	細江あすなろ作業所
4	Ｄさん	男	55	平成 21 年 9 月	大山ファーム
5	Ｅさん	男	46	平成 21 年 9 月	細江あすなろ作業所
6	Ｆさん	男	74	平成 24 年 3 月	アグリッシュ西丘

第三大山荘

	氏　名	性別	年齢	入居年	日 中 活 動 先
1	Ｇさん	女	75	平成 21 年 9 月	アグリッシュ西丘
2	Ｈさん	女	55	平成 21 年 9 月	細江あすなろ作業所
3	Ｉさん	女	54	平成 28 年 4 月	大山ファーム
4	Ｊさん	女	70	平成 29 年 6 月	アグリッシュ西丘
5	Ｋさん	女	69	平成 27 年 6 月	細江あすなろ作業所
6	Ｌさん	女	48	令和　2 年 4 月	大山ファーム

２．支援の状況

・今年度も法人昴会の基本理念に沿って「生き生きとした暮らしの実現」「地域での主体的な暮らし」を目指し支援を行ってきた。グループホームが他人との共同生活の場でもある以上、お互いにある程度のルールを設けることはあったが、「利用者一人ひとりの暮らし」を基本に、本人の生活スタイルや自由、要望に応えること、意思決定支援、そのための情報提供を大切にした支援を行った。

・日常生活においては、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、平日は日中活動先の大山ファームやアグリッシュ西丘、草の根作業所、あすなろ作業所、相談支援事業所との連絡調整を行い、連携・協力して支援を行った。土日は、新型コロナウイルスの影響で、法人の行事や地域の行事、催し物が中止となり、地域で「自分らしく、普通の暮らし」ができることは難しかった。

・「事故」については、転倒や小さな傷が見られる場合が大きな怪我には、繋がっていない。第二大山荘・第三大山荘の利用者の半数が 65 歳以上と高齢化が進んでいる。引き続き、転倒等の事故の発生予防に努めていきたいと思う。

・新型コロナウイルス感染拡予防については、第一大山荘同様にマスクの着用や手洗い、消毒、指導を繰り返し行ってきたが、長時間マスクをつけることができない利用者も見られた。

・家族（成年後見人等）とは、年２回の個別面談や必要な連絡、帰宅等の機会を通して連携関係を保ってきた。

３．支援体制

・管理者、生活支援員、世話人が日常的生活支援・介助に当たり、地域生活を送る上で必要な買い物などの外出支援、通院付添等の医療支援の他、相談事やメンタル面のケア、日中活動場所との連絡調整など多岐に渡る支援を行った。また、日中活動先である大山ファーム職員、アグリッシュ西丘職員、あすなろ作業所職員、草の根作業所職員、相談支援事業所相談員、四季の郷看護師・栄養士等とも連携・協力して支援を行った。

・少数職員体制で支援を行なっているグループホームでは、職員個人の経験や知識、生活観が支援内容に直結しやすい特性があるため、職員間で支援目標や方針の共有・理解を図るよう、会議の有効活用や小まめな情報交換・意見交換を心掛けた。

３．行事

・第二大山荘・第三大山荘の行事としては、個々人の余暇支援と合わせて、季節を感じることができる外出ができる時には行った。新型コロナウイルスの影響で、行事が中止になったり、規模を縮小しての行事となり、参加することは出来なかった。

主な行事は以下の通り。

花火、初詣、誕生会、おやつ作り、

４．健康支援

・毎朝の検温を実施し、日々の体調観察に努めた。定期的に精神科と呼吸器科、循環器科等の通院に加え、年２回の健康診断の結果や日中活動先での歯科検診を踏まえ、要治療の入居者の受診支援を行った。

５．防災の取り組み

・火災等災害発生防止に努めるとともに、定期的に火災、地震等の災害を想定した訓練を実施した。また、2 月には四季の郷の防災講習会（AED を使った心肺蘇生訓練等）に参加した。

・防災訓練実施状況

4 月　6 日	消防設備の取り扱い訓練
6 月 27 日	大雨による土砂災害を想定しての避難訓練
7 月　7 日	夜間の火災を想定しての消火・避難訓練
9 月 27 日	災害時を想定して発電機の取り扱い訓練
11 月　7 日	南海トラフ大規模地震に関する警戒宣言が発令されたことを想定しての避難訓練
3 月 26 日	搬送訓練

６．会議・研修

・月１回、利用者の支援に関わる職員会議を行った。

・研修については、新型コロナウイルス感染の影響があり、法人単位の研修会等が中止となり、参加することはなかった。職員会議内の時間を使った「感染予防」、「虐待防止」、「事故防止」等をテーマにした内部研修を実施した。

・外部研修については、新型コロナウイルス感染の影響で、中止も多く、参加をしなかった。

細江あすなろ作業所

１．利用状況

*利用者の状況　　定員２０名　　利用者２１名（男性１２名／女性９名）

	知的障害が主	
年齢性別	男性（名）	女性（名）
７０代	0	2
６０代	3	1
５０代	2	1
４０代	2	2
３０代	1	1
２０代	4	2
１０代	0	0
計	１２	9

※平均年齢４２．８歳

障害支援区分	人数（名）	利用者本人の住居状況	人数（名）
3	3	自宅	１２
4	7	GH 大山荘	5
5	9	四季の郷	3
6	2	他の GH	1
計	２１	計	21

※平均区分 4.4

２．作業状況　　開所日数　260 日

①下請作業　・ワイズ（有）　プラスチック部品の仕分け

・エステック　自動車部品の組み付け

②自主製品　・ せっけん作り

・ ぼかし

・ ビーズアクセサリー

・縫製用品

③自主製品の販売

販売方法

・作業所

・「作業所連合会わ」より紹介

・浜松南ライオンズクラブ

委託販売

細江町社協・三ケ日町社協・奥浜名湖商工会・咲夢茶店、とんきい・竜ヶ岩洞

④その他　・農作業

・アルミ缶回収

３．活動状況

(1) 利用者の意思及び人格を尊重。

利用者個々にアセスメントを行い、利用者が安全で楽しい日中活動が送れる場の提供に努めた。感染症対策として職員による企画・ワークショップを実施。（単調になりがちな日中活動に配慮した。）

(2) 利用者の自立した日常生活または社会生活を営む能力の向上。

特に、服装に関して季節、清潔に重点をおき、家庭との連絡を密にし、家庭事情で把握が困難な方については、許可を得て日常生活品の購入や作業所内での衣類の管理支援をおこなった。

(3) 利用者の食を原点とする衛生面の自立を目指す。

・食事前の手洗いに関し清潔を意識する支援を行った。泡状のポンプを使用し除菌効果が高まるように手洗いの支援を行った。

・食事の場面では、支援員がつき食事における咀嚼、消化能力の向上を意識した声掛けを行った。

・食後の歯磨き支援は、歯間ブラシ・糸ようじ・タフト等のグッズを使用して出来るかぎりの口腔ケアに努めた。

・年に１回歯科衛生士による指導を予定していたが、中止の通達により無くなった。

(4) 筋力の衰えを防ぎ、体力の維持を目指す。

・毎日のラジオ体操、ロコトレ体操を行い、個々のペースにあった歩行を行った。

・指導者を外部から招き、機能訓練を含めた体操を行った。

・2名に関しては、有料ではあるが専門家によるリラクゼーションを行った。

・不定期ではあるが理学療法士による有効な個別のストレッチについてアドバイス受けた

(5) 生産活動を通じて、社会の一員であるという自覚の持てる支援を行う。

・高齢化、重度化に伴い下請作業では対応できない部分が増えたので、自立課題を提供し作業に必要な態度、技術、集中力、知識、協調性などの習得を目指した。

・自主製品としてビーズアクセサリーを女性中心に作成して販売することができた。

・自然と親しむことを目的に、農作業も導入した。野菜の収穫を行うことができた。

(6) 表現活動、行事イベントの体験から個人の生きがい向上に努めた。

・音楽を利用しての表現活動に力を入れ、４人の講師による音楽療法、ミュージックセラピーを行い、ダンスを中心とした表現活動を行った。

・ みをつくし文化センターホールを借りて日中活動の発表を「あすなろ文化祭」として行った。同時に日中活動で作成した絵画等の作品を2日間展示室にて展示した。

・3月には第３回目の「細江DE音楽祭」を計画したが、コロナウイルス対策のため外に向けての発表は断念。利用者とご家族のみで開催した。

４．行事

４月　健康診断

６月　２町ボーリング大会（中止）
日帰り旅行（中止）

９月　「季節を味わう会」おはぎ作り
防災訓練

10月　ふれあいスポーツレクレーション大会（不参加）
歯科検診（中止）
「季節を味わう会」収穫感謝祭

11月　あすなろ文化祭・あすなろ作品展
ほのぼのマーケット（中止）

12月　地区防災訓練（中止）
防災訓練
障害者週間イベントとしてベル21にて「作品展」参加
クリスマス会
忘年会(食楽工房さんよりテイクアウト)

１月　井伊谷宮に初詣

農協祭（中止）
２月　地区作品展（中止）
３月　Zoom 元気ライブ出演
細江 de 音楽祭
防災訓練

その他の行事・プログラム
月１回　誕生会（もしくは昼食会）
音楽療法士による音楽会
音楽療法士による音と遊ぶ
アコーディオン奏者による歌う会
インストラクターによるレクダンス
２名の講師による軽体操・健康セラピー
年３回　医師による健康相談

４．職員研修
・西部地区職員研修
・施設長研修
・法人研修　障害者虐待防止、権利擁護研修
・強度行動障害　基礎研修　実践研修
・リンパ体操
・自閉症スペクトラムの理解と支援
・法人研修　不適切ケア
・精神障害についての理解と支援

５．その他
※5 月の緊急事態宣言中は、利用者さん家族に協力をお願いして 3 密を避けるように利用人数を調整した。（新型コロナウイルス感染症に係る障害サービス等事業所の人員基準等の臨時的な取り扱いについて（第 4 報）に沿って事業展開を実施）
※小塩報恩会より LDE 照明器具一式を寄付
※日本自動車総連より業務用大型空気清浄機 2 台寄贈

大山ファーム

１．利用者状況　（R3.3.31）

月	在籍者（名）		１日の平均出勤者数（名）		稼働率（%）		契約者		終了者		契約終了理由
	移行	B型	移行	B型	移行	B型	移行	B型	移行	B型	
4	1	23	1	20.0	16.6	95.0	1	3	0	0	
5	1	23	0.8	20.5	14.2	93.2	0	0	0	0	
6	1	23	1	21.0	16.6	95.4	0	0	0	0	
7	1	23	0.9	21.2	15.9	96.4	0	0	0	0	
8	1	23	1	20.8	16.6	94.8	0	0	0	0	
9	1	23	0.9	21.8	15.9	99.3	0	0	1	0	
10	0	24	0.8	22.6	14.4	102.9	0	1	0	0	移行→B 型
11	0	24	0	22.6	0	102.8	0	0	0	0	
12	0	24	0	23.0	0	104.9	0	0	0	0	
1	0	24	0	21.9	0	99.7	0	0	0	0	
2	0	25	0	22.9	0	104.0	0	1	0	0	
3	0	24	0	22.8	0	103.7	0	0	0	3	B 型→移行
平均			0.7	21.9	9.1	99.3	1	5	1	3	

（男性：16 人平均年齢 30.5 歳／女性：8 人平均年齢 38.7 歳）

（1）利用定員

〇就労移行支援（6 名）・就労継続Ｂ型支援（22 名）

（2）新規利用者内訳

〇地域からの利用…6 名（就労移行支援 1 名・就労継続支援Ｂ型 5 名）

相談支援事業所や特別支援学校等と連携を図りながら、就労移行支援・就労継続支援 B 型の募集を行った。

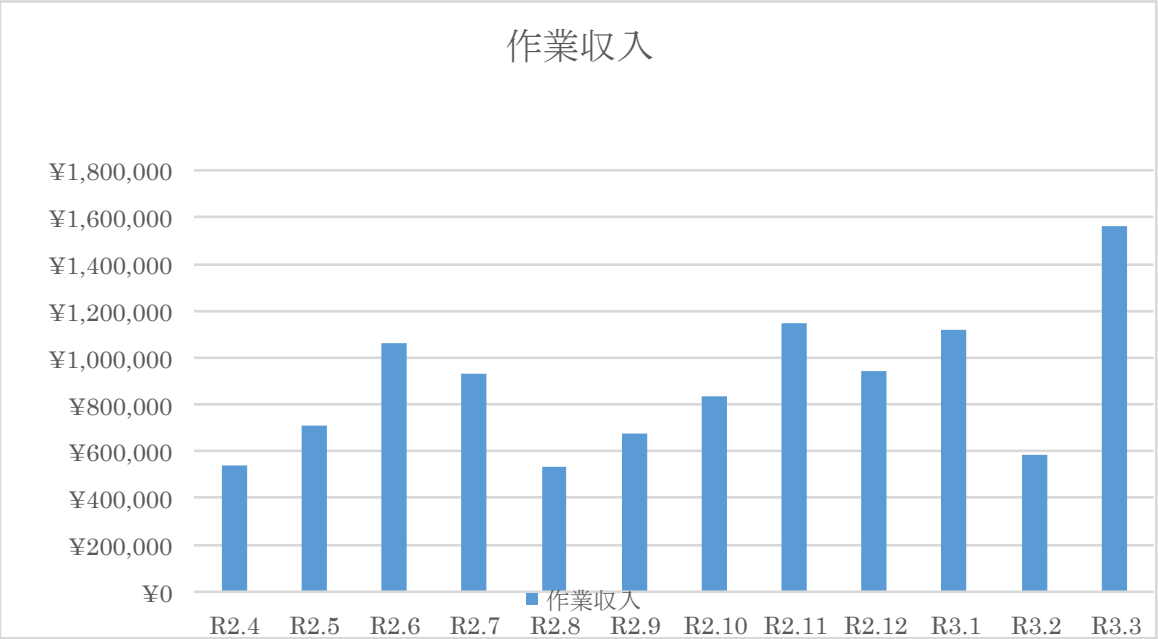
（3）退所者内訳

〇事業所内異動…3 名、転居…1 名（就労移行支援 1 名・就労継続支援 B 型 3 名）

就労移行支援は 2 年間という限られた期間で一般就労へ向けて支援を行うため、雇用情勢や残りの期間を見据えて大山ファームの就労継続支援 B 型へ異動するケースもあった。

２．支援の状況

（1）作業収入割合



●令和 2 年度総収入　10, 646, 417 円（令和元年度総収入　10, 397, 278 円）

（2）支払工賃

●工賃総額　5, 805, 000 円　（令和元年度工賃総額/5, 741, 700 円）

●月一人あたりの平均工賃　就労継続支援Ｂ型　20, 071 円

（令和元年度平均工賃）　就労継続支援Ｂ型　20, 118 円

（3）支払工賃

他の事業所との差別化を行うため、就労移行支援・就労継続支援 B 型事業を行っている大山ファームは、一般就労及び平均工賃の向上（平均工賃 20, 000 円以上）を目標に活動を行ってきた。また、ミニトマトの他に新たな自主製品を模索した。

（4）施設外作業

実習先事業所	作業内容	備　　考
(福)おおぞら療育センター	衣類整理業務	
(医)西山病院	庭園管理業務	
(有)舩越造園	除草作業	不定期
法林寺	除草・清掃作業	月に 1 回
めせあファーム	玉ねぎの収穫・除草等	

るぴなすの畑	野菜の収穫・除草等	
優先調達	除草作業・維持管理作業	重要文化財中村家住宅、新都田サービスセンター
社会就労センター	駐車場管理	スペース 24
興福寺	除草・清掃作業	

就労に必要なスキル（挨拶やマナー）を経験・実践する場として施設外作業を位置付け支援を行った。また、グループ単位で作業を進めていくことで連携や協調性を育むことができた。地域とのつながりの中で小学校の除草作業や公共施設の清掃作業など活動の場を広げることができた。

(5) 下請け作業

委託先	作業内容	備　　考
(株)ＴＧ	自動車部品の組み付け	
(株)ワコー	自動車部品の組み付け	
(株)ダイセン	物品仕分け・梱包	

利用者の特性や費用対効果の分析を行い、作業手順の再考や単価交渉を行った。

(6) 自主製品

販売・委託販売	販売内容・取引先	備　　考
ミニトマト（小売販売）	無人販売所	ふぁ～まるしぇ
（委託販売）	ＪＡとぴあファーマーズマーケット	三方原店・浜北店
	ヴィラ東山苑	高齢者施設
染色、縫製（小売販売）	無人販売所	ふぁ～まるしぇ

栽培作物（ミニトマト等）

ミニトマトについては 7 月中旬に定植をした。品種としては千果とアイコを選定した。かんざんじ温泉のバイキングレストラン「るぴなすの畑」へミニトマトを納品していたが、今年は休業のため JA のファーマーズマーケットへ出荷した。収穫量によっては浜松市内にある 4 つの店舗に出荷することで収益を確保することができた。

染色・縫製作業として小物（マスクやてぬぐい）や雑貨を製作した。2 月に業務用ミシン等を 3 台が静岡新聞社から寄贈を受けた。

３．健康支援

希望者に対して 4 月に健康診断を大山ファームで実施した。

感染症対策として通所時の検温や換気、消毒を徹底した。また、利用者にもマスクの着用や手洗い等の必要性を伝えると共に継続的に意識できるようにポスターを掲示した。コロナウイルス・インフルエンザが流行することはなかった。

４．防災・危機管理・リスクマネジメント

年間、3 回の防災訓練を行った。(9 月「総合防災訓練」11 月「福祉施設防災訓練」3 月「事業所内防災訓練」）土砂災害危険区域に指定されたため、土砂災害の避難マニュアルと防災訓練を実施した。

「ひやり・はっと事例報告書」や「事故報告書」が提出された際は、経緯や改善策を検討して再発防止に努めた。

５．行事

コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度も「地域交流まつり」を中止することとなった。

６．会議・研修

調整会議（委託作業等に関わる調整事項…1 回／週）支援員会議（利用者支援に関わる内容…1 回／月）モニタリング会議（個別支援計画に関わる内容…2 回／年）を行った。

内部研修は「新人職員研修」「通所部防災対策及び危機管理について」「虐待予防と行動障害」を行った。

外部研修についてはコロナウイルスの影響があり、必要な場合を除いて参加を自粛した。

アグリッシュ西丘

1．利用者状況

	在籍者数	一日平均通所者数	稼働率	新規契約者数	退所者数	退所理由
4	28 名	19.0 名	95.0%	4 名	0 名	
5	29	19.4	97.0	1	0	
6	31	21.0	105.0	2	0	
7	31	21.6	108.2	0	1	家事手伝い
8	31	20.9	104.3	1	0	
9	31	21.5	107.3	0	0	
10	31	21.7	108.8	0	0	
11	31	20.7	103.4	0	0	
12	31	19.5	97.5	0	1	自立訓練移行
1	30	20.8	104.0	0	0	
2	30	19.5	97.5	0	1	自宅療養
3	29	19.7	98.8	0	1	特養移行
平均	30.25	20.44	102.2	8	4	

利用定員　就労継続Ｂ型支援（20 名）

【新規利用者内訳】

・特別支援学校の就労実習や見学を実施していることから、卒業後の進路先の一つとして認識してもらえるようになった。4 月より卒業生 1 名が利用契約利用開始。

・地域からの利用…在宅 1 名／他の就労継続支援Ｂ型から移行 2 名／病院 1 名
　4 月は新規契約者 4 名、5 月～6 月にかけて体験実習していた在宅の精神的な障害特性の方が 3 名ほど契約者する。

・法人内の就労支援Ｂ型の施設より 2 名の方が移行。また、病院から同法人グループホームに入居した方 1 名が契約。

特別支援学校や相談支援事業所等と連携することで新規利用者の確保に努めた。地域からの利用者の特徴としては過去に就労経験があり、中途に身体的な障害となった方の利用ニーズや、在宅での精神的な障害を持っている方のニーズが上がってきている。作業内容や支援方法に工夫に努めた。

２．支援の状況

（1）平成 31 年度・令和 1 年度作業総収入　2,208,658 円

開所から続けてきたリサイクル作業が、1 月から一旦終了となってしまった。ガーベラの仕事が、農家の方の都合で中止となってしまい、その 2 つによる減少は大きかった。一方で、梱包系の農作業物の梱包作業等の新たな作業を受けてきた。来年度に向けては、利用者の工賃を安定的に確保できるよう、下請け作業や外部施設外作業などの比率を上げ、できるだけ諸経費が掛からない仕事を増やすことも考えていきたい。

※支払工賃の状況

工賃総額　1,913,262 円（月一人あたりの平均工賃　　5,270.6 円）

（2）作業の状況

●施設外作業

実習先事業所	作業内容	備　　考

パセリ農家	パセリ片付け・耕耘作業
宮本肥料店	堆肥の袋詰め

●下請け作業

委託先	作業内容	備　　考
昭栄商会(株)	プラスチック製品の リサイクル前処理	
水野加工(有)	自動車部品組み立て バリ取り	
ワコー(株)	自動車部品組み立て	
大五運送(株)	お菓子梱包作業・缶バッジ	

●農作業

事業所での栽培（ＬＥＤ水耕と露地物）

ＬＥＤ水耕は、Ｇリーフレタス、サニーレタスの栽培を実施してきた。新規品種のフリルアイスを導入し、売り上げの向上を目指した。露地では、おくら、さつまいも、サトイモ、唐辛子の栽培を実施した。

栽培した農作物は、以下のような場で販売をしてきた。

販売・委託販売	販売内容・取引先	備　　考
小売販売	各行事	
委託販売	ＪＡとぴあファーマーズマーケット	三方原店
	ファーマルシェ	
	アグリッシュ四季の郷販売	

(3) 行事実施状況

5月　2日（木）バーベキュー会
8月12日（月）弁当買い出し・バリアフリー上映会販売
8月17日（土）収穫祭（夏）
8月24日（土）四季の郷夏祭り（販売）
11月17日（日）あすなろほのぼのマーケット（販売）
11月23日（土）四季の郷秋祭り（販売）
11月24日（日）スマイルフェスタ
12月28日（土）弁当買い出し
1月　4日（金）新年会
1月18日（土）収穫祭（冬）

※3月にも販売の予定があったが、新型コロナウイルス感染拡大により中止となった。

３．研修

(1) 園内研修

回	月日	内　　容	参加者
1	5/11 15:30～ 17:00	障害特性に応じた理解と支援 ・高次脳機能障害 ・肝性脳症	管理者・サビ管・ 支援員５名
2	8/10 15:30～ 17:00	①障害特性に応じた理解と支援 ・強度行動障害 ②サービス利用等計画と個別支援計画書	サビ管・ 支援員５名
3	10/31 17:30～ 19:00	法人研修会 虐待予防と行動障害 ～静岡県虐待防止研修会を受講して＋ 感染症(嘔吐)の処置方法	管理者・サビ管・ 支援員５名

4	2/15 9:30～ 11:30	法人研修会 　不適切ケアを考える	支援員３名
5	3/9 18:00～ 19:00	①フォークリフトの使用時の安全研修 ②虐待防止研修 　　職員セルフチェックの実施	サビ管・ 支援員５名
6	3/17 13:30～ 14:30	福祉の森、記入方法　記録の大切さ ・業務の割り振り ・障害者理解	サビ管 支援員２名

(2) 外部研修

回	月日	内　　容	参加者
1	9/26 13:00～ 16:00	次世代育成のための研修	支援員１名
2	11/7 8:00～ 16:30	刈り払い機取り扱い作業者に対する安全教育	支援員１名
3	11/28 9:30～ 17:30	サービス管理責任者等更新研修	サビ管

すばる

１．受け入れ実績

今年度も、約 200 件の施設・事業所利用者、在宅の利用者とその家族の相談支援とともに、市内委託相談支援事業所及び主に西区・北区・南区・湖西市の障害福祉サービス事業所、精神科病院、地域包括支援センター、民生委員、行政と連携し支援を行ってきた。

利用者のニーズを元に支援計画を立案し、利用するサービス事業所との連絡・調整、定期的なモニタリングの実施が事業内容となるが、体調不良報告や不安定な状態の発現、介護者の状態変化等にコロナ禍ということも重なって、突然の対応が必要なケース数はより多くなった１年であった。

また、コロナ禍で感染予防のため自宅や事業所に直接訪問ができないケースも見られ、電話での状態確認をせざるを得ないケースも見られた。

※計画書作成とモニタリング実施の請求数（のべ件数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計画 ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ	35	62	62	52	46	54	54	42	53	40	32	43	575

２．支援体制

年度初めは、専従の相談支援専門員２名と補助相談員１名の３名体制でスタートした。年度途中に１名の専従相談支援専門員が産休・育休に入ったため、アグリッシュ西丘職員との兼務体制を組み、専従１名、兼務１名、補助相談員１名の体制で支援を行った。

３．研修等

対応ケースが少なく、比較的コロナ感染状況が落ち着いていた６月から７月にかけて、３回のケース事例を中心にした研修を行った。

事業報告の附属明細書

令和２年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していません。

社会福祉法人　昴会